

## ヘルメス科学

ヘルメス科学(Hermetic Science)

中世から近世にかけてのヨーロッパにおける神秘主義的な科学の総称、占星術、占星術的な医術、錬金術などが一群をなしていた

ヘルメス主義、ピタゴラス主義、新プラトン主義などの神秘思想の影響を受けていたためヘルメス科学と呼ばれる(オカルト科学という呼び方もある)

これらの学問領域や思想はいずれも古代ギリシャ・ローマ世界からイスラム教圏での発達をへて、ヨーロッパへ中世に逆輸入されたもの

ヘルメス主義(Hermetism)

ギリシャ＝エジプトの神ヘルメス・トリスメギストス(トート)が書いたとされる「ヘルメス文書」(Hermetica)を理論的支柱とする神秘主義思想

人間の潜在能力を強調することでルネサンスの思想にも大きな影響を与える

占星術(astrology)

テキスト参照

占星術的医術

マクロコスモス(宇宙)とミクロコスモス(人体)の対応を基礎として、占星術的に病気の原因をさぐる

錬金術(alchemy)

アリストテレスの四元素説→あらゆるものは四原理(火、水、土、空気)から出来ているので、相互に変換可能であるはず

卑金属を貴金属に変えることのできる「賢者の石」を探し求める

錬金術の書物は比喩を多用して書かれる

→実験手順は他人にはわからない(本当に金ができただのかどうか追試ができない)

→後知恵で考えれば、「金を作った」と言っていた錬金術師たちが嘘をついていたか勘違いしていたことは明らか

錬金術と化学の関係

・化学の実験装置が作られるとともにさまざまな物質が錬金術的な実験の中で発見された

・錬金術と化学(chemistry)が区別されるのは18世紀になってから

・18世紀末以降の近代化学においては世界を構成する基本的なものが物質であるのに対し、錬

金術においては、世界を構成する基本的なものは「原理」principles という抽象的なもの・フロギストン説も初期(17世紀)においてはフロギストンを「火の原理」とみなす錬金術的理論だったのがだんだん物質的な理論になり、物質的理論としての無理から酸素説にとってかわられる

## 占星術と錬金術の関係

占星術は数学的科學(数学、天文学、音楽)の一部

錬金術は自然哲学(四元素説や天動説に基づく物理・化学・生物理論)の一部

→それぞれに化学の一部だったが、両者はもともとはそれほど密接にかかわっていたわけではない

ただし、いずれにおいても、惑星や金属の持つ象徴的意味が惑星の地上への影響や化学反応に影響を持つ——「ヘルメス的」であるゆえん

ルネサンス期のヨーロッパにおいて、両者の統一が意識されるようになる

惑星と金属の対応(イスラム時代から存在、水銀と水星の対応は今も英語名に残る)

太陽-金 月-銀 金星-銅 火星-鉄 木星-錫 土星-鉛 水星-水銀

最終的にパラケルスス(1493/94-1541)によって医学を中心として占星術、天文学、錬金術などが統一科学として整備される

→同時代には影響を持ったがニュートン力学や機械論的化学によって忘れ去られる

ヘルメス科学まで包摂して一つのまとまりだったルネサンス期までの科学を無理矢理「科学的」な部分と「疑似科学的」な部分に引き裂くことは歴史の歪曲ではないか？